

| 第 8 回北広島市立小学校及び中学校通学区域審議会 | |
|---------------------------|---|
| 日 時 | 平成 1 8 年 8 月 3 1 日 (木) |
| 場 所 | 石狩教育研修センター 研修室 A |
| 内 容 | 内 容 小学校の適正配置について |
| | 概 要 |
| | <p>適正配置の具体的方策について検討</p> <p style="text-align: center;">= 提出された主な意見 =</p> <p>適正規模に関する中間答申では 1 2 学級 ~ 2 4 学級を基本とすると提起されており、当然それが尊重されなければならない。しかし、現実には児童数の推移があるので、適正規模は基本であり地域の実情を考慮して弾力的に運用していく必要がある。</p> <p>小学校の適正配置を考える場合、中学校の配置状況を念頭に置きながら小学校の場所がどうあるべきか考えていくことも大事ではないか。</p> <p>文部科学省では、小学校の通学距離について、概ね 4 Km という基準を示しているが、今日的な学校での安全・安心な学校づくり、不審者対策あるいは登下校時の交通事故の問題などを考えると、なるべく近いところで 1 つの校区がくくられるよう考えていくべきではないか。</p> <p>学校のこれからの在り方として、地域に根ざした学校、或いは地域に支えられた学校、地域に発信していくといった、学校の在り方が強く求められている。そういう意味からいうと、住区毎に学校があることが大切ではないか。第 1 住区、第 4 住区には中学校があり、ほかに、第 2 住区、第 3 住区があるので、それぞれの住区毎に中学校・小学校が配置されることが望ましいのではないか。</p> <p>今、学校での一番大きな課題というのは、確かな学力もさることながら、子ども達の安全な登下校というのが非常に大きいウエイトを占めている。子ども達の安全を地域で守るという視点から、特に自治会を中心とした動きが第 3 住区、第 4 住区にある。通学区域を大きくするという事は、基本的には地域コミュニティ - の在り方にも影響があるので、</p> |

| | |
|-----|---|
| 内 容 | <p>地域のコミュニティ - の在り方を考慮していく必要があると思う。</p> <p>第1住区と第2住区、また第3住区と第4住区というように、通学区域をできる限り変えないような形での統合のあり方を考えていくことが、安全上にもつながるし、地域の在り方としても安定したものとなると考える。</p> <p>学校があるということは、非常にコミュニティ - にとって大事なものだと思う。そういう意味から、それぞれの住区の中に何らかの形で学校が残るといったような形態が望ましいと感じている。第1・第2住区のひとまとまりの中で、どちらかに小学校があれば、どちらかに中学校がある。同じように第3・第4住区についても中学校があれば、もう1つには小学校があるという様な状況が望ましいのではないかと。そのことが地域の中の連携や今後を見据えた上でも、大事なことではないか。</p> <p>適正規模から考えると、4校を1校にして新しい学校を建てれば快適な環境ですごせると思う。新しい学校を建てれば、子供たちにとっても快適で、将来的にも適当な規模の人数が確保でき、切磋琢磨して育っていく教育環境を整えることができると思う。しかし、学校は単に規模だけではなく、地域とのつながりや環境の問題などトータルして考えていかなければならないと思う。折角できつつある地域のコミュニティ - を育てていきたいという思いもある。数字で割り切ってしまうと、4校を1校というのが1番だが、住区毎に学校があるという考え方が良いのではないかと気がしている。ただ、学校があるというだけでなく、学校を中心にして何をやるかということ、地域と学校と利用者などが一体になって考えていく必要があると思う。</p> <p>中学校区を単位として、高齢者がたとえ病気になったとしても地域の中で暮らせるように色々な施策が考えられている。高齢者対策と少子化対策は一体だと思っているので、高齢者がいつまでも地域で安心して暮らせ、子供たちも安心して暮らせるよう、団地の今後の20年、30年をどうするかということ、市として検討していく必要があると思う。</p> <p>地域のコミュニティ - は非常に大切だと思うが、学校の配置はただそれだけで決めるべきではないのではないかと。通学するのは子ども達であり、安心・安全といった、違う観点からも考えて見る必要があると思う。住区毎に学校をとというのは具体的になってしまうのではないかと。</p> |
|-----|---|

| | |
|-----|--|
| 内 容 | <p>4校を1校に統合した場合校区が拡大される。安心・安全の観点からすれば、通学路がより広くなると掌握するのはより困難になる。そうした観点から4校統合には疑問がある。学校を含めた社会環境の整備がなされ、そこが良いところだということで人は住んでいるわけだから、住んでいる方々の思いをしっかりと受け止めながら、適正配置の問題も考えて行かなければならないと思う。</p> <p>現実的には、現在の学校の中で、統合できる可能性の高いところを選択していく必要があるのではないか。例えば、統合した場合に、子ども達が学校の中で、一定の学級数の中に入って行けるようなキャパシティがあるのかどうかとか、地域的なコミュニティ - の関わりを維持しながらその学校を統合に持っていけるのかといったことも考えながら進めていかなければならないと思う。広葉小学校と若葉小学校、高台小学校と緑陽小学校といった2校統合という形も1つの案ではないか。</p> <p>地域の思いとか、安全・安心だとか地域説明会の中で出てきた様々な課題について応え、教育の質の向上をさせるために付帯事項を考えていく必要があると思う。</p> <p>4校を1校にするというのが望ましいが、現実的には用地がなく無理だと思う。高低差や通学距離を考えると、第1住区と第2住区、第3住区と第4住区、最大広げてもそこまでと感じている。通学距離が少し長くなるというだけでも、親の気持ちの負担があると思うし、友達と遊びに行く範囲としても、そこまでだと思う。</p> <p>広葉小学校と若葉小学校、高台小学校と緑陽小学校の組み合わせで良いと思う。4校を1校にするというのは、用地の問題や、新校舎を建てるとなると色々な問題が出てくると思う。4校を2校にするのが通学距離もそんなに長くないし、子ども達にとっても1番良いと思う。</p> <p>統廃合という形で議論をしてきたが、最初は4校を残せないかという思いがあった。しかし、4校を残すことは、今後1クラスを維持するのがやっとであり、統合という形が望ましいのではないか。基本的には、物理的、距離的に考慮すると緑陽小学校と高台小学校、広葉小学校と若葉小学校ということになると思う。</p> <p>適正規模を基本と考えれば、統合となるだろうし、地域のコミュニテ</p> |
|-----|--|

| | |
|-----|--|
| 内 容 | <p>イ - の関係とか、安全な通学路関係といった色々な面からすれば、広葉小学校と若葉小学校、緑陽小学校と高台小学校という区域での統合は当然考えられるのではないかと思う。まちづくりの観点からすると、北広島市全体としては、まだ人口は増えているにもかかわらず、北広島団地だけは10年くらい前から減ってきている。将来的な子どもの数のデータも示されており、減少しているのを前提に考えていくのが現実的な対応ではないか。</p> <p>北広島団地の生活環境は他の都市に比べても非常に優れており、ここで子ども達を育てていくということを考えていくと非常に魅力のある団地である。今は確かに人口、子どもも減少しているが、若者、子育てを中心にする年代の人たちが、魅力を感じて住んでくれるだろうかということを考え、何らかの手を打っていかねばならないと考えている。そうなったときに、人口が増加する可能性も考えられるが、今、広葉小学校と若葉小学校、緑陽小学校と高台小学校が仮に統合され、将来子ども達が増えるような状況になったとしても十分対応ができるのではないかと思う。</p> <p>4校を1つにするとは考えていなかったが、だんだん子どもの人数が減っていく状況の中で、4校を残すというのは無理だろうと思う。できれば1学年最低2クラスは欲しいし、クラス替えができるのが良いと考えているので2校ずつの統合が望ましいと思う。</p> <p>審議会としては、広葉小学校と若葉小学校、高台小学校と緑陽小学校を統合するのが望ましい。しかし、具体的に使用する校舎については、審議会の委員に統合の対象となっている全学校の関係者が入っていないこともあり、言及しないという結論になった。</p> <p>付帯意見について検討</p> <p style="text-align: center;">= 提出された主な意見 =</p> <p>統合に当たっては、一方の学校が吸収されるという考えではなく、使用される校舎が以前の学校であっても、そこで新しい教育を行うという考え方でなければならないと思う。</p> <p>地域の方々に理解していただき、地域の中に新しい学校をつくるとい</p> |
|-----|--|

| | |
|------------|--|
| <p>内 容</p> | <p>う考えで、その具体的なことは学校間で組織を作って協議していかなければならないと思う。</p> <p>不審者の問題、安心・安全の問題があり、中央通を交差する形になるので特に交通安全に配慮していかなければならない。</p> <p>最終的に、2校が1校になれば、その一方の学校が今後どのような形で地域に活用される施設になるのか、そういうデザインが地域の方にわかる形で示すことが必要ではないか。</p> <p>通学の中の安心・安全ばかりでなく、ハンディを背負っている子どもも安心して安全に学校生活を送れる、そういう校内の設備も必要だと思う。更に、耐震設備、耐震改修も含めこれから考えていかなければならないことだと思う。</p> <p>それと併せて、やはり財政的な問題も現実的にはあると思う。子どもの安心・安全を確保するためには、いわゆる費用対効果、コストパフォーマンスを考えたときに、どちらの学校をどのようにしたらどのくらいお金がかかるのか、そういうことを情報公開し、団地の住民の方と考えながら校舎を選択し、改修の範囲も考えていくことが大事なのではないか。</p> <p>北広島市は財政的にもまだ余裕があるので、子どもを育てる環境としては良好なのだから、学校も立派にして、それだけでも人が増えるようなお金の使い方をしてもらいたいと思う。また、今後の議論の進め方、住民説明会のタイミングがかなり難しいのではないかと。全くプランのない状態で説明しても疑心暗鬼になり、あまり見通しをつけてから説明会を行ってもいまさらということにもなる。タイミングをじっくり見計らい、広報するなり、時期的なことでも十分考えて実施していただきたい。</p> |
| <p>出席者</p> | <p>審議委員 : 松本会長、大滝副会長、小林委員、古野委員、木戸委員、宮森委員、住友委員、櫻井委員、樟山委員、高山委員、千葉委員、児玉委員</p> <p>事務局 : 教育委員会 管理部長 小菅 敏博 教育施策推進担当参事 工藤 正 " 主査 加賀谷 博司</p> |
| <p>傍聴人</p> | <p>17名(うち報道機関 2名)</p> |